

園芸
農産加工2 1 最上伝統野菜“甚五右エ門芋”の
6次産業化プロジェクト

事業実施主体：佐藤 春樹（真室川町）

◆プロジェクトの概要

最上伝統野菜の一つ、甚五右エ門芋（サトイモ）の増産を行うことによってブランドとして確立させ、旅館や料亭等への契約販売やネット販売に取り組む。また、農家民宿を視野に入れた宿泊体験施設を設置し、6次産業化によるさらなるブランド力向上、産出額拡大を図る。

◆具体的事業

H22: 農機具の導入、圃場整備、ホームページの作成等
H25: 古民家リフォームによる宿泊体験施設整備等

◆創意工夫性

- 市場出荷でなく、価値を理解してくれるホテル等に出荷するため、皮むきまでの加工を行う。
- 価値を理解してくれる一般消費者向けの通信販売を手がける。
- 宿泊体験施設を設置し、甚五右エ門芋を使った郷土料理や、栽培・収穫体験を提供し、ブランド化や産出額拡大を図るとともに、地域の魅力を発信する。

◆事業の成果

- ①産出額の増加（H21：750千円→H25：11,382千円）〔H26目標：9,000千円〕
※H26目標を達成し、さらなる産出額拡大を図っているところ。
- ②最上観光博イベント「真室川芋祭」を実施し、多数の参加者に芋掘り体験や伝統料理「芋煮」を提供し楽しんでもらった。
- ③最上伝統野菜「甚五右エ門芋」の収穫体験等を通じて、地元小学生の食育に寄与している。

◆事業実施主体の声

甚五右エ門芋の味と歴史に価値を見出してくださる方が多く、とても感謝しています。我が家に伝わるこの芋の生産販売を通じて、地域の食と文化を守り、皆様に提供し続けていきたいと思っておりますので、一度召し上がってみてください。（「森の家」又は「甚五右エ門芋」で検索してください。http://morinoie.com/morinoie/）

また、古民家を改修して、甚五右エ門芋の栽培・収穫体験の核となる農家民宿を開設しました。ここを拠点として、地域に交流人口を呼び込み、作物のPRはもとより、地域にぎわいを与え、さらには町全体の活性化につなげてまいりたいと考えております。



特用林産物

2 2 菌床しいたけ肘折温泉朝市産直拡大
プロジェクト

事業実施主体：大蔵生しいたけ部会（大蔵村）

◆プロジェクトの概要

椎茸栽培施設を効率的に利用できるよう椎茸上面発生器用台車を導入し、椎茸上面発生器を増やすことによって椎茸生産量を上げ、あわせて肘折温泉朝市での販売量を増大することにより、産出額を拡大する。

◆具体的事業

H22: 上面発生栽培用台車導入

◆創意工夫性

○肘折温泉朝市での需要に応えるため、培養室に上面発生栽培用台車を導入し、限られたスペースを有効活用することで、椎茸生産量を増加させる。

◆事業の成果

- ①産出額の増加（H21：25,000千円→H25：33,584千円）〔H26目標：33,500千円〕
- ②雇用の増加（H21：540人日→H25：780人日）〔H26目標：720人日〕
- ③肘折温泉の朝市において、湯治客から当部会産椎茸の評判がよく、固定客も増加してきている。

◆事業実施主体の声

上面発生栽培用台車の導入により、限られたスペースを有効活用でき栽培管理等の作業効率が上がった。気温の変動に苦慮しているが、空調設備等を使いながら、これまで培った栽培技術を活かし、収量の増加と高品質化を目指していきたい。



特用林産物

23 多品目キノコの効率栽培とバイオマスエネルギープロジェクト

事業実施主体：合同会社ライズ（鮭川村）

◆プロジェクトの概要

菌茸生産設備を拡充することにより、主力商品であるナメコのほか、季節に応じた多品目のきのこ（椎茸、アラゲキクラゲ、トンビ舞茸）の生産を行い、産出額の増大を図る。

◆具体的事業

H22：菌茸生産施設一式
ペレット製造機
ペレット温水ボイラー等

◆創意工夫性

- ナメコの収穫から包装までを機械で行うライン化を取り入れ、作業を効率化
- 廃オガ屑をペレット化してバイオマス温水ボイラーの燃料に利用

◆事業の成果

- ①産出額の増加（H21：33,000千円→H25：83,776千円〔H26目標：99,960千円〕）
- ②雇用創出（H21：0人→H25：5人）
- ③施設やナメコ収穫機の視察に訪れる生産者が増えている。

◆事業実施主体の声

近年、キノコ単価の下落や資材単価の値上がり、大型生産施設の稼働等で廃業する生産者も出てきた。このような事から施設の効率化と培地製造や収穫から包装までをライン化する事でコストを抑える必要があった。また、主力品目であるナメコの夏場の低価格時に、季節に応じた複数品目のキノコを生産することで、ナメコを減産しながら雇用を維持し、既存の施設も有効活用することができた。



園芸
農産加工

24 在来野菜・新野菜の加工品製造・周年栽培による生産の拡大プロジェクト

事業実施主体：遠藤 孝太郎（長井市）

◆プロジェクトの概要

ハウスを新設し、地域特産野菜「行者菜」（にらと行者にんにくの交配野菜）の周年栽培と、「行者菜」「花作大根」「馬のかみしめ（大豆）」等を使った加工品製造・販売により生産拡大と所得向上を図る。

◆具体的事業

H22：加工施設及びハウスの設置、包装機購入、商標登録（「行者菜」キャラクター）

◆創意工夫性

- 商標登録した「行者菜」キャラクターを使って、地域をあげて新野菜「行者菜」の栽培と販売拡大に取り組み、地域の特産物化を図る。
- 行者菜入り味噌、ラー油等の加工品を製造することで付加価値を創出する。

◆事業の成果

- ①産出額の増加（H21：10,000千円 → H25：11,800千円）〔H26目標：13,000千円〕
- ②栽培面積の増加
（事業申請者）H21：1a → H25：4a（生産農家計）H25：18名、35a
- ③加工品の製造
行者菜加工品として「行者菜入り塩麴」、花作大根加工品として「ゆずの香大根」（ゆず入酢漬け）を開発し、菜なポート（市民直売所）などで販売を行った。直売所販売での評価は非常に良く、次シーズンから本格投入を目指す。

◆事業実施主体の声

行者菜の促成栽培により収穫期間は着実に長くなっている。今後は年末年始の需要期をターゲットにした休眠打破の技術に挑みたい。花作大根は加工品だけでなく「辛み」を生かした麺類の薬味としての利用を拡大するため、地元の手打ちそば屋の協力で試食会も行っている。今後も、生産者だけでなく地元の各業種の方々と連携し、農産物の新たな魅力を探っていききたい。



土地利用型
園芸

25 水稲栽培における施設整備と新規にんにく栽培導入プロジェクト

事業実施主体：酒井 喜三（長井市）

◆プロジェクトの概要

特別栽培米及び新品種「つや姫」の水稲作付及び作業受託の拡大に伴う育苗ハウスの増設と、新規にんにく栽培の取組みによる育苗ハウスの有効活用を図る。

◆具体的事業

H22: 育苗ハウス、灌水設備、糶摺機、米選別機、自動計量機、にんにく種子

◆創意工夫性

- にんにく栽培における育苗ハウスの有効活用（乾燥調整、冬期栽培等）
- 規模拡大に伴う施設整備により、水稲作業の効率化を図る。

◆事業の成果

- ①産出額の増加（H21: 14,180千円 → H25: 20,727千円）〔H26目標: 21,060千円〕
- ②栽培面積の増加（H21: 水稲栽培10.0ha、作業受託2.5ha、にんにく栽培0.1ha → H25: 水稲栽培14.1ha、作業受託3.3ha、にんにく栽培1.5ha）

◆事業実施主体の声

本事業を活用し、機械を整備したことにより、水稲を核として園芸部門（にんにく）を新規に開始し、栽培面積の拡大や雇用の創出を図りました。

にんにくについては、年間供給体制を確立し、むきにんにくの年間契約、黒にんにく、にんにくチップ等の加工品にも取り組み、直売所で販売を行うなど、周年農業が実現しました。

今後、消費者により満足してもらえるように、品質向上等の為の技術習得と販路拡大に努めていきたいと思っております。



園芸
畜産
農産加工

26 ぶどう栽培と羊放牧を組み合わせた低コスト循環型農業による高品質ワイン製造と地域ブランドの創造

事業実施主体：有限会社酒井ワイナリー（南陽市）

◆プロジェクトの概要

景勝地鳥上坂に広がる耕作放棄地の再生しながら、ぶどう栽培を規模拡大するとともに、栽培地に羊を放牧し、羊とぶどうを組み合わせた循環型農業（園内に羊を放牧して雑草やぶどうの搾りかすを餌として給餌。羊の排せつ物を肥料として活用）を展開することにより、高品質ワインの製造及び羊肉のブランド化を図る。

◆具体的事業

H22: ワイン醸造用機器、ぶどう栽培地整備資材
H23: ぶどう苗木、ぶどう栽培地整備資材、羊の導入

◆創意工夫性

- 羊を放牧することでぶどう栽培地の除草・施肥やぶどう搾りかすを有効利用することができ、循環型農業を実現できる。
- 羊が育つぶどう園から作られるワイン、ぶどう園で育つ羊の肉としてブランド化を図り、観光につなげる。

◆事業の成果

- ①産出額の増加（H21: 53,886千円→H25: 59,770千円）〔H26目標: 72,610千円〕
- ②栽培面積の増加（H21: 1.4ha → H25: 5.9ha（4.5haの耕作放棄地を解消））
- ③羊の飼育頭数（H21: 3頭 → H25: 6頭）〔H26目標: 30頭〕
- ④地域内雇用（H21: 0人日→H25: 478人日）〔H26目標: 365人日〕
- ⑤将来的には鳥上坂とぶどう園の景観、羊を組み合わせたワインツーリズムの定着を図る。

◆事業実施主体の声

ブドウ畑内に羊を放牧し除草を行わせ、その糞を肥料として畑に還元させる循環型農業の実現、省力化を目標に取り組んでいます。本事業を進めた結果、地元でも弊社の取組みが認知されるようになり、農地の契約が容易になったほか、県内外を問わず羊のいるブドウ畑を見学するお客様が増え、店舗への来客数も増加しました。

新たに醸造用ブドウ栽培を開始した畑において収穫が始まり、農業後継者の減少、耕作放棄地の増加に伴う醸造用原料ブドウの不足を補うことができ、自社銘柄のワインの製造量が増加することによってブランド強化にもつながり、取扱店舗数は増加しています。



土地利用型 27 福沢地区水田利活用プロジェクト

事業実施主体：福沢地区農業機械利用組合（高島町）

◆プロジェクトの概要

遊休農地や転作地でのWCS作付拡大、収穫運搬、水田耕起・代掻き、堆肥散布などを行うコントラクター組織として耕畜連携を推進する。

※ WCS=ホールクroppサイレージ=繊維の多い茎葉部分と栄養価の高い子実部分を完熟する前に一緒に収穫して、ロール状にフィルムで包みこみ発酵させたもの。

◆具体的事業

H22:トラクター、フロントローダー、ロールグラブ

◆創意工夫性

OWCS生産作業に係る専門作業集団(コントラクター組織)として作業受託することにより、遊休農地の活用や耕畜連携を側面から支援

◆事業の成果

- ①産出額の増加(H21:8,060千円 → H25:11,275千円) [H26目標:13,140千円]
- ②作業受託面積の増加
(WCS収穫運搬 H21:16.6ha → H25:30.3ha、
耕起・代掻き H21:51.6ha → H25:44.3ha、堆肥散布 H21:0ha → H25:10.5ha)
- ③雇用の創出(H21:0人日→H25:250人日)[H26目標:255人日]

◆事業実施主体の声

生産調整水田の有効活用と飼料自給率の向上を目的として、耕種農家・畜産農家を主体として協議会を立ち上げ、当組合の主導でWCS用稲の生産拡大に努めています。また、町及び関係機関の指導を仰ぎながら、耕畜連携による町内循環の拡大を図っており、作業面積も年々増加していることから、栽培・畜産農家それぞれの需要があると感じています。今後は、より質の高いWCSの生産・提供に向けて、さらに力を注いでいきます。



農産加工 直接販売・サービス 28 雑穀&加工品直売プロジェクト

事業実施主体：山口 ひとみ（小国町）

◆プロジェクトの概要

町で取り組む雑穀振興対策に合わせ、栄養及び環境価値の高い雑穀を材料にした加工品の製造に取り組み、小国ブランドとして振興を図るとともに、インターネットを活用した直販により所得拡大を図る。

◆具体的事業

H22:加工品製造施設の建設、加工品製造機器整備、ホームページ作成

◆創意工夫性

- 雑穀を加工品に製造することで付加価値が生まれ、インターネットで販売することで所得向上が図られる。
- 町が推進する雑穀振興対策と連携し、雑穀の小国ブランド化を目指す。

◆事業の成果

- ①産出額の増加(H21:500千円 → H25:3,404千円) [H26目標:5,000千円]
- ②町内での商品普及と売上増加を目指し、既存の菓子店1店舗、スーパー1店舗に加え、新たに道の駅でも取引を開始
- ③地域内雇用(H21:0人日→H25:259人日)[H26目標:290人日]

◆事業実施主体の声

食にこだわる母親4名での運営体制になり、取組みの幅が広がっています。新商品の開発や食育講座・農作業体験を通じた顧客フォローを丁寧に行うことで、更なる産出額の増大に努めて行きたいと思っています。



農産加工
直接販売
・サービス29 つるおかフルーツの里・くしびき
ステップアッププロジェクト

事業実施主体：株式会社産直あぐり（鶴岡市）

◆プロジェクトの概要

店頭で搾りたてのジュースや焼きたての米粉パンを提供し、販売額の増大を目指す。

◆具体的事業

H22: 特注店舗型ハウス、
ベーカリー、ミキサー等
調理機器

◆創意工夫性

- 生食用の規格外品となる果物・野菜の加工による付加価値販売
- 新鮮な搾りたてジュースや焼きたて米粉パンの店頭販売

◆事業の成果

- ①産出額の増加（H21: 363,145千円 → H25: 375,014千円）〔H26目標: 382,000千円〕
- ②果物・野菜の付加価値をつけた加工販売（H21: 0円 → H25: 9,104千円）
- ③地域内雇用の確保（H21: 0人日 → H25: 257人日）〔H26目標: 250人日〕
※H26目標を達成し、さらなる雇用の確保に取り組んでいるところ。

◆事業実施主体の声

あぐり会員が生産しているつや姫を使用した米粉パンは当初目標を上回る販売額となっており、中でも旬の果物を入れたデニッシュパンは大人気商品となっています。また、今年度商品化した果物タルトも好評のうちに販売することが出来ました。生ジュースもお客様の目の前で搾りたて販売が大好評で、平成26年においても6月から11月まで旬の野菜と完熟果物の生絞りジュースを販売しました。
今後も新たなヒット商品開発に向けて日々努力してまいります。



園芸

30 バラ栽培における最適な環境構築
プロジェクト

事業実施主体：株式会社アキバナーセリー（山形市）

◆プロジェクトの概要

採光性が高く光合成促進を中心とする複合環境制御技術を導入した低炭素モデル大規模生産施設を設置し、CO₂排出量削減を図るとともに産出額の増加を図る。

◆具体的事業

- H23: 栽培棟・作業棟の新設、
複合環境制御システム導入
- H24: 栽培棟の増設

◆創意工夫性

- オランダ型フェンローハウスの導入
…光線透過量の増大と、大規模化による
単位面積あたりの生産コストの減少及
び作業性の効率化を図る。
- 複合環境制御システムの導入
…光、湿度、温度、CO₂濃度などバラ栽培
に最適な環境を再現し、増産と高品質
化を図る。

◆事業の成果

- ①産出額の増加（H22: 240,000千円 → H25: 310,000千円）〔H27目標: 410,000千円〕
- ②複合環境制御技術導入によるバラ出荷本数
（H22: 34千本 → H25: 1,256千本）〔H27目標: 1,789千本〕
- ③雇用の創出
（H22: 5,750人日 → H25: 14名新規雇用・10,800人日）〔H27目標: 9,500人日〕
※H27目標を達成しており、さらなる雇用創出に取り組んでいるところ。

◆事業実施主体の声

本支援事業の支援を得て導入したフェンローハウスと複合環境制御システムにより、ハウス内の栽培環境、作業環境が改善され、高品質なバラを安定的に生産できるようになりました。
今後とも、バラを通してお客様に心の潤いと安らぎを提供できるよう、一層の努力をしていきたいと思います。

